

学会印象記

第5回 DDS 再生医療研究会

2015年11月28日(土)

大阪：西梅田 ガクトホール

大会長：磯貝典孝(近畿大学医学部形成外科学教室 主任教授)

黒田 良祐

神戸大学大学院医学研究科外科学講座整形外科

第5回 DDS 再生医療研究会が、2015年11月28日大阪市西梅田のガクトホールで開催された。近畿大学医学部形成外科学教室主任教授の磯貝典孝先生が会長を務められた。本研究会が“DDS”を探求する場のみならず、最終目標として再生医療の臨床応用を目指す、という視点から『基礎研究と臨床応用を結ぶ DDS』がメインテーマとされた。特別講演4演題が企画され、近畿大学薬学総合研究所・森山博由先生が「脂肪由来幹細胞の特徴と脂肪細胞移植における基礎研究からの留意点」、岡山大学大学院自然科学研究科・小西敏功先生が「生体吸収置換型ペースト状人工骨の開発」、同志社大学大学院生命医科学研究科医生命システム・萩原明於先生が「大動物を用いた管状臓器再生の試み」、近畿大学生物理工学部遺伝子工学科・森本康一先生が「潜在的な物性を引き出したコラーゲン・マテリアルの創製」というタイトルで再生誘導の3大因子である細胞、サイトカイン、足場のそれぞれの観点から再生

医療を俯瞰し、組織再生誘導に関する詳細な研究成果と最新の知見が紹介された。

DDSに関する基礎研究セッションでは科研製薬より歯周組織再生薬開発、新田ゼラチンより再生医療用ゼラチン開発の成果が報告された。また臨床研究セッションではDDSを用いた心筋再生治療、膝半月板修復、特発性大腿骨頭壊死症治療、顔面神経再生などの臨床経験が報告された。さらに午後のセッションでは学会長の専門分野である形成外科領域における組織の再生誘導の試みが企画され、コラーゲン/ゼラチンスポンジのHGF、bFGF徐放能と創傷治癒促進効果、徐放化PRPと β -TCPとの複合体を用いた骨新生促進効果、マイクロ軟骨を細胞供給源とする新規軟骨再生誘導法の開発などの最新研究が報告された。いずれのセッションも各領域の第一線でご活躍されている先生方のご登壇され、40余名の少人数参加の研究会であったが、参加者の活発な議論を通じて、再生医療に関す



写真1 熱い議論がかわされる会場風景



写真2 閉会のご挨拶をされる磯貝典孝会長